

## 令和4年7月 月例報告

7月となり、暑い日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。トロントでは、気温は30度近くまで上がりますが、日陰に入れば風が心地よく、トロントの夏は大変良い季節です。

今月は、トロント日本映画祭について紹介したいと思います。

日系文化会館(JCCC)では、本年第11回目となるトロント日本映画祭が6月16日から30日までの15日間、3年ぶりに有人で開催されました。トロント日本映画祭は今や北米地域で最大の日本映画祭に成長しました。単に最新の日本映画を紹介するだけでなく最新作、話題作の上映を通して日本文化に触れ、また日本とカナダの友好促進、相互理解のため非常に貴重な行事となっています。



今年の映画祭の様子

過去11回の映画祭の中では、トロントの話題をさらった映画があります。現在は制作の方面にも関わっておられます齋藤工さんですが、2018年、2019年と2年続けてトロント映画祭に登場しました。日本国内でも滅多に直接、お目にかかることができない人気俳優が2年も続けてトロントに登場したのです。トロント周辺だけではなく北米から多くのファンが、飛行機で、自家用車で駆けつけました。日本国内からも多くのファンが映画祭に駆けつけ、JCCCの周りには行列ができたそうです。世界で初めて公開される映画も少なくありません。今年も「大河への道」(中西健二監督、中井貴一、松山ケンイチ、北川景子)が国際(日本国外)初公開でした。2019年には「ダンスウィズミー」がワールドプレミア(日本国内も含めて世界初公開)。矢口史靖監督、主

演女優の三吉彩花さんが小林ホール(JCCGの大ホール。毎年このホールで映画祭が開催される。)に登場、大観衆の喝采を浴びたそうです。

**A GAMBLER'S ODYSSEY 2020**  
NORTH AMERICAN PREMIERE  
ACTOR TAKUMI SAITOH IN ATTENDANCE

主演: 齋藤工 × 監督: 白石和彌  
1945年の「戦後」から2020年の「戦後」へ突入のギャンブラー—— 狂が覚た世界とは?

**麻雀放浪記 2020**

4.5 平均最後の最も危険な  
【エンターテインメント・コメディ】

Boyzetto, a skilled mahjong player, time slips from the ruins of post-war Japan to Tokyo in the year 2020. He finds a ruined city plagued by a decreasing population, increasing unemployment and social unrest. The 2020 Olympics have been cancelled and an evil organization plans to reshape the event as a massive human versus artificial intelligence maelstrom competition. Boyzetto must step forward to represent the human race and find a way back to his own time. Kazuya Shirasaka's film is a wildly imaginative roller-coaster ride of bizarre characters, surreal transgression and action based on Takekazu Iwakawa's novel and Yozo Shimizu's manga.

Starring: Takumi Saitoh, Momo, Becky, Naoto Takenaka  
STRICTLY RESTRICTED TO 18+ FOR SCENES OF NUDDITY AND SEXUALITY

Screening Sponsor: **Beginning** **Sunday, June 16, 2019 @7:00pm**

SHI/EIDO, NTN, SIBURAJI, LifeWear, bento, JAPANESE-CANADIAN CULTURAL CENTRE 日・加・文化・交流センター, AIR CANADA, The Bill And Jan Hinzeoka Family Fund, SONY

齋藤工「麻雀放浪記2020」

**DANCE WITH ME**  
WORLD PREMIERE  
ACTRESS AYAKA MIYOSHI AND DIRECTOR SHINOBU YAGUCHI IN ATTENDANCE

カラダが勝手にミュージカル!?

**DANCE WITH ME**  
ダンスウィズミー

8.16

A joyous musical comedy from the director of Woodjob!, Survival Family, Sailing Girls and Water Boys. Shizuka works at a big Tokyo trading company and harbours a secret crush on her dashing boss. One weekend she takes her niece to visit a carnival hypnotist to help her find an upcoming job too musical. But it is Shizuka who falls under the spell and she is soon breaking uncontrollably into song and dance wherever she hears music: in the street, during board meetings, at posh restaurants, even a cell phone ringtone! Shizuka must embark on a cross country hunt for the hypnotist to break the spell, singing and dancing all the way! A funny, fast paced and delightfully joyful update of classic musicals featuring a delightful lead performance from Ayaka Miyoshi.

Starring: Ayaka Miyoshi, Yui Yashin, Chay, Takahiro Mura, Toyochi Mito, Akira Takarada

Screening Sponsor: **AIR CANADA**  
**Monday, June 10, 2019 @7:00pm**

SHI/EIDO, NTN, SIBURAJI, LifeWear, bento, JAPANESE-CANADIAN CULTURAL CENTRE 日・加・文化・交流センター, AIR CANADA, The Bill And Jan Hinzeoka Family Fund, SONY

ダンスウィズミー

2017年の山崎貴監督(「海賊と呼ばれた男」)、2015年の原田真人監督(「駆け込み女と駆け込み男」)を始め、最前線の多くの日本人映画監督がお見えになる映画祭としても有名です。過去においては監督同士の対談や観客との交流が実現。今や日本映画を世界に発信する最重要の場の1つとなっています。映画祭に来られた監督や俳優さんはその後、ナイアガラの滝を見学されるなど、映画祭だけではなくトロント周辺も堪能されて日本に戻られるとのこと。

さらに特筆すべきは、トロント日本映画祭は日本にも逆上陸しているのです。日比谷においてトロント日本映画祭が過去4回実施され、本年も10月に日比谷で開催されます。このイベントの観客の多くは日本に在住する外国人の方々です。ここに出品される日本映画には英語のサブタイトルが付きまます。これによって北米においてどのような日本映画の人気の高いのか、関心を集めるのか、その後のトレンドの参考にもなるとの事でした。

私も、本年の映画祭のオープニングでご挨拶させていただきました。私の個人的体験ですが、学生時代に和弓を引いていたことから、巨匠・黒沢明監督の「乱」にエキストラで「出演」しました。弓で矢を射るエキストラのアルバイトを、当時の弓術部の仲間とともにしたことがあります。映像にとられていたのは、私ではなく矢です。実際に私の放った矢が作品に採用されたかどうかは定かではありませんが、その事実を紹介させていただきました。



Image from Ran courtesy of Toho Company, Ltd.

#### 総領事の挨拶の様子

このようにトロント日本映画祭はすでに北米において確固たる地位を確立していますが、そのラインナップを組み立てるのは容易なことではありません。日本映画についての知識とネットワークが必要となるからです。この映画祭を作り上げ、育ててきたのは JCCC のジェームス・ヘロン JCCC 館長と高畠晶さん、さらにクリス・ホープさん (JCCC 副理事長。次期理事長。) です。トロント日本映画祭を産み育ててきたこのお3人の功績は大きなものがあると思います。また映画祭を支える多くの JCCC の支援者、日系企業のスポンサーの存在も忘れることができません。



ジェームス・ヘロン氏と高畠晶さん、クリス・ホープ氏。映画祭に見えた女優の 松岡  
茉優さんとともに。

今後もさらに日本映画のカナダや世界への発信の場としてこの映画祭が成長して  
いくことを期待したいと思います。(以上)